

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	ライジング・パーティクル	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.560	△RG	0.031	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：ライジング・パーティクル**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

番

研磨剤

5in

MB

**比較対照ボール：ライジング・スペシャルエディション**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ

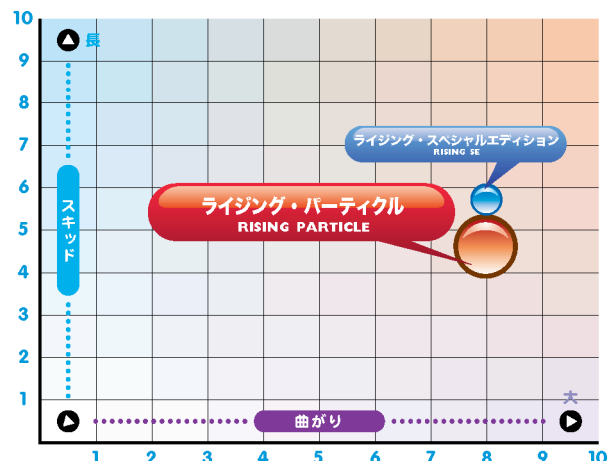
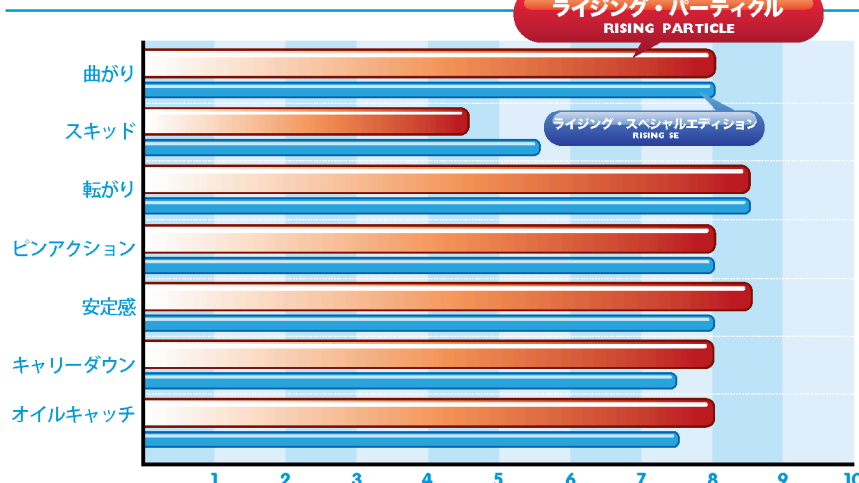
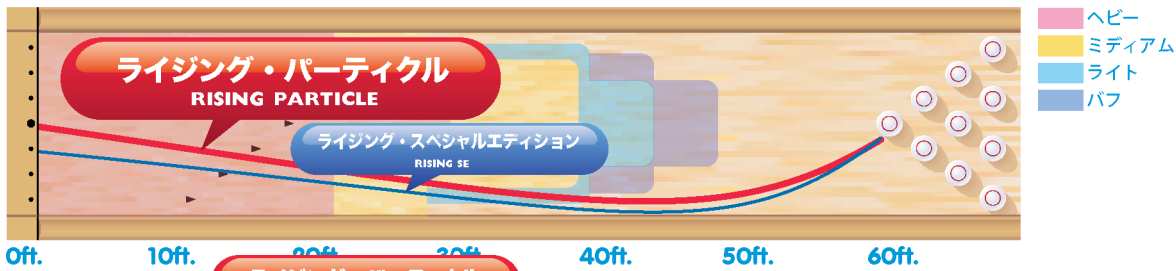
PAPからピンとの距離  インチ

番

研磨剤

3-1/2in

MB



**ボールの評価**

トラック社ライジングシリーズ。発売されたすべてのシリーズは必ずその性能の証を結果として残し、前回発売されたRISING SEも井口直之プロのパーフェクトゲームから姫路麗プロの快進撃に至るまで、その活躍を支えてきています。トラック社は今回更なる領域でボウラーを支え、サポートする為にこのRISING Particleを発売致します。私がこのボールを初めて手にし、感じた事は「何故今更Particleなのだろう?」という疑問でした。オイルキャッチに優れたリアクティブ素材が流行とされる中、この採用されたParticle素材の意味、そして#1000アブラロン加工に些か疑問を感じたのは事実です。しかしその疑問と不安はテストを続けていくうちに「期待」へと変わっていきました。このボールの最大の特徴はやはりParticle素材ならではの手前のオイル量に対する絶対的な強さと、ミッドエリアでの曲がりのイメージの持ち易さでしょう。ボールはミッドエリアで曲がり始めてしまえばキャリーダウンの影響も少なくポケットヒットが容易くなり、逆にレイトリアクション性能のボールに傾くほどキャリーダウンしたコンディションには影響度が高いと言っても良いでしょう。今回何故トラック社があえてParticle素材を選択し、コアスペックをRG2.560、△RG0.031に抑え、あえてフレア幅を細かくさせてまでモーションポテンシャルが高いメガトロンコアと融合させたのはキャッチの強いParticle素材を中心に考え、パワーバランスを調整するためなのです。私はこのボールを二つのレイアウトで投球してきましたが、このボールの性能を最大限生かすならば強いドリルレイアウトで投げるほうがより特性を感じる事が出来るでしょう。また投げ込んでいくうちに表面加工に光沢が出てきます。その場合でもやや曲がり始めは遅くなりますが、逆にその方がメリハリを感じる場合もあります。貴方はオイル用でこのボールを使いますか?それともポリッシュしミディアムコンディションで使いますか?

**特記事項**

**箱出しの加工でオイル用・ポリッシュしてミディアムコンディション用。あえてこの時代にParticle素材とメガトロンコアを融合させた理由をその手で感じてください。**